

平成 30 年度事業報告書

| | |
|-------|--|
| 事 業 名 | 法人本部 |
| 記 入 者 | (職 名) 常務理事 (氏 名) 児玉哲郎 |
| 事業報告 | <p>1. 重点事項</p> <p>平成 30 年度のサービス活動収益は前年対比 99.9% であった。要因として保育事業、障がい事業は增收となったが、法人本部建替えに伴うユニット型施設の定員減（80 床から 29 床へ）とショートステイ事業所の定員減（40 床から 20 床へ）による減収（前年対比 99.0%）が主要因である。</p> <p>定員変更による空床分はすでに認知症グループホーム 9 床（平成 31 年 4 月 1 日開所）と小規模多機能型居宅介護施設登録 25 名（令和 2 年 1 月開所予定）に転用することが決まっており、令和元年度末の稼働率は正常に戻り、収入も増加すると思われる。</p> <p>平成 30 年度の介護報酬改定率は 0.54% の増であるが、周辺事業所との競合等により減収傾向は避けられない状況である。デイサービスにおけるリハビリ機能の強化、法人内有料老人ホームと連携することで効果的な運営を目指すと共に、既に実践している地域貢献活動（ライフ IP 来樂舞）を通じ、地域の要介護者が介護サービス必要時に選択していただけるよう継続的な活動を行い、且つ基礎介護力の向上に引き続き努め信頼できる事業所を目指す。</p> <p>人材確保は同種同業のみならず他の産業との競争もあり、激しい状況が続いている中、平成 31 年 4 月は常勤職員 18 名が入職した（介護系 9 名（内障がい者 2 名）、保育系 9 名）。平成 30 年度における職員の離職者は 10.5% であった。例年に比べ高いのは厨房業務が一部委託から法人運営に移行したことによるミスマッチ、こども園において結婚による寿退職が増えたことが要因である。介護職だけを見れば 4.6%（昨年 5.6%）と落ち着いておりが令和元年度は 3% 台を目指す。</p> <p>なお、平成 31 年 3 月末の常勤職員は 233 名。非常勤職員は 153 名である。</p> <p>2. 介護保険事業</p> <p>特別養護老人ホームにおいて、全国高齢者ケア研究会の泉田照雄氏の指導のもと、職員の介護技術、知識の向上をはかっている。新たな発見等があり、実践結果も表れている。また、これにより職員のモチベーション</p> |

ヨンもアップしている。さらに介護保険サービスセンター、ヘルパーステーション、デイサービスなど地域包括ケアシステムの中核を担う事業所にも指導を頂き、中重度化した在宅要介護者に向けて質の高い介護サービスの提供を目指した。

3. 社会福祉事業・公益事業

ケアハウス、生活支援ハウス事業、住宅型有料の各事業は、入居者の精神的・身体的な重度化が著しく、職員の献身的な取組みにより介護保険サービスを併用しながら生活を支えている。

4. 収益事業

医療法人に対する賃貸収入事業である収益事業については、平成30年度は問題なく推移したが、平成30年4月末に田室の工藤内科が閉院し、31年4月末で退去した。今後の土地活用方法について周辺環境の情報を収集し、有効活用を模索する。

5. 地域貢献事業について

近時、社会福祉法人の責務として地域貢献の在り方が問われている。当法人では法人全体の事業を通して地域貢献の視点に立ち事業展開を図ってきたが、より具体的に「見える化」を図るためNPO法人川添なのはなクラブへの助成を行い、そして機能訓練・認知症予防等を目的とした『ライフル来楽舞』を実践し社会福祉法人としての責務を果してきた。

またオレンジカフェ（認知症家族の会）を通して地域コミュニティづくりを積極的に実施し、安心の拠り所としての機能を果す。

<実績>

- ・大分市あんしんみまもりネットワーク事業参加
 - ・NPO法人川添なのはなクラブへの財政支援
 - ・大分市認知症家族支援事業開催(川添年3回)
 - ・登校児童への交通安全・あいさつ活動(川添、明治)
 - ・ライフル来楽舞開催 明治(年27回 6か所 延べ 965名参加)
高田(年63回 6か所 延べ 1,934名")
舞鶴(年19回 6か所 延べ 253名")
 - ・ライフルカフェ(オレンジカフェ)開催 年12回 延べ408名参加
 - ・グランドゴルフ大会開催(明治年2回)
- 尚、次年度より大分くらしサポートに再入会を行い活動を開始する。